組合員数101,698人
支部数　936
読者数 64,088人
（2月月報）
〔連絡先〕☎03（5978）2751　FAX03（5978）2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。

年金者しんぶん

第412号　2024年4月15日（月）
（通巻第611号）
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人　杉澤　隆宣　月刊１部100円（組合費に含む）
昭和57年６月30日第三種郵便物認可

全国でブロック交流集会

5年ぶり再会 熱く懇談

創意工夫の取組み交流

「久しぶりだね～」「元気だった？」―あちらこちらで再会のあいさつが聞かれた春のブロック別支部交流集会。コロナ禍を乗り越え、5年ぶりに開かれました。「どうやって仲間を増やすか」、議論は白熱。春の月間での前進を誓い合いました。

補聴器助成に力

―四国ブロック―

四国ブロック交流集会は3月4、5両日、愛媛県松山市内で開かれ、予想を上回る83人の組合員が参加、女性の参加は4割を超えました。「かつてないことで驚いている」との声も。

全体会では、中央本部の基調報告と女性部の特別報告、組合員の最高時現勢を維持している岡山県本部の木村書記長の特別報告。「（仲間増やしで）何をしなければならないか、がよくわかる話だった」、「自分にはできないなあ」などの声が聞かれました。

分散会では、補聴器の自治体助成の取り組みについて意見交換。実現に向けて粘り強く運動しようと誓い合いました。

交流会では、玄人なみのバイオリン演奏で仲間を迎え、カラオケで各県代表がのど自慢。各県本部が出し物で競い合い、大交流。楽しいひと時を過ごしました。

参加者の最高齢は、愛媛県本部松山支部の山内淳正さん（94歳）。交流会のカラオケでは三橋美智也の「古城」を熱唱し、参加者を驚かせました。「久しぶりの参加で本当に楽しかった。かつての仲間が少なくなっていたのは寂しかったけれど、それは新しい仲間がふえているということ、喜ばしい」とにこやかに話してくれました。

参加者が一体となっての阿波踊り

納豆踊りで楽しく元気な茨城の参加者

4分散会で議論

―九州・沖縄ブロック―

九州・沖縄ブロックは3月18、19両日、8県本部97人の参加で、鹿児島市内で開催。

全体集会では、鹿児島県本部野口委員長が歓迎あいさつを行い、中央本部木田書記長が基調報告。鹿児島大学伊藤周平教授による「日本の年金制度・年金政策の動向と課題　財源問題にも触れて」の講演が行われました。

野崎中執が「共済学校について」、中川女性部長が「女性部総会とこの間の取り組みについて」の報告がありました。

夕食交流会では、歌声コーラス、舞踊など各県本部の出し物を楽しみ、友好を深め合いました。

2日目は分散会。仲間づくりの交流、裁判運動、要求運動と支部ニュース、要求運動の4つの分散会で交流、活発な議論になりました。

全体集会では分散会の報告、木田書記長によるまとめ、そして野口鹿児島県本部委員長の閉会あいさつで終了しました。

福岡県本部の「月間で100人純増」という目標に参加者は励まされました。

友好を深め合った夕食交流会

活動は公共施設で

―北関東ブロック―

北関東ブロック交流集会は3月11、12両日、伊香保温泉の森秋旅館で行われ、栃木・山梨・茨城・群馬の4県本部から106人が参加しました。森村バンドによる歓迎の演奏で開会。群馬県本部平田委員長が歓迎あいさつし、中央本部田中書記次長の基調報告、野崎中央執行委員の共済についての報告がありました。

258カ月連続拡大の埼玉県本部富士見支部の小倉支部長が「先進県支部から学ぶ」というテーマで報告。文化祭の取り組みに力を注いでいることと、様々な活動の場に公的施設を利用して、年金者組合を市民に知らせる活動に大きな関心が寄せられました。

参加4県本部の支部活動交流では、楽しいレク・サークル活動や作品展などの取り組みが語られました。

その後、4分科会（①仲間づくり・まちづくり②全労連共済③女性部④機関紙）が、夜の交流会を挟んで、翌日午前中まで行われました。

夜の交流会は、鏡割から始まり各県本部の歌、踊り、日本舞踊と大いに盛り上がりました。

春の月間で躍進誓う

風雪

▼還暦、古希、喜寿、傘寿、卒寿、白寿。長壽の節目を祝う言葉。昭和三十年代、定年が57歳という時代、「まんころ」という言葉があった。定年直後に亡くなる方をさした言葉。その頃は、還暦を迎え赤いチャンチャンコを着せられて…。

▼古希「古来より七十歳まで生きる人は稀なこと」という意味。現在は定年も65歳となり、再任用等で70歳近くまで働くことが「稀」ではなくなった。

▼昨年暮れ、小生を含む3人の80歳の祝いを、地元組合員が行ってくれた。人生で初めての経験であった。

▼日本で百歳以上の方は9万人を超えているという。年金受給者で10万円以下の方は2300万人もいる。年金裁判で低年金、特に女性の低年金の実態が可視化され、国民的課題となった。

▼年金支給日の贅沢は「アサリご飯」80歳の女性。「長生きがつらい」ではなく、長寿を喜べる社会を望む。（飯）